

柏谷和夫の観察日記より。仮面ライダーのモデルとしても有名なトノサマバッタです。緑のものが一般的ですが、これは褐色型のペアです。11月8日、甲府盆地の富士川の河原で、交尾中のためか、カメラを近づけても逃げませんでした。

紅葉台



新聞

第214号

2025年

12月27日

発行人：関谷 孝

柏谷和夫の観察日記



10月31日の夜は大雨でした。その翌朝、11月1日の八王子・片倉城跡公園のトネアザミです。前夜の雲が朝日に当たっていました。ひと昔前であれば11月には霜が降りていましたが、地球が暑くなった現代では霜は未だ何日か先です。



八王子・湯殿川沿いには小規模ながらも田んぼがあり、毎年牛の案山子が登場します。毎月の湯殿川の野鳥定期カウントの楽しみの一つです。今年は赤い口紅で化粧した牛さんでした。この日はこの田んぼの近くの湯殿川で渡り鳥（冬鳥）のクイナと再会を果たしました。



5年前から私も所属しているNPO東京生物多様性センターの活動の一環としてニホンミツバチの巣箱を八王子・日野市内に数か所設置しました。巣箱を設置しても「待ち人来たらず」で中々ミツバチが定着しなかったり、定着しても天敵にやられてしまったりでしたが、ようやく5年目の今年、2カ所の巣箱にニホンミツバチが定着し、先日巣箱から蜂蜜を採取できました。それがこの写真です。ニホンミツバチの蜜は「百花蜜」といって、いくつもの種類の野草の花から集められた蜂蜜で、毎朝プレーンヨーグルトにかけて美味しい頂いています。



ピラカンサの実は昔はオレンジ色の物が主体でしたが、最近は赤い実のものがあちこちで見られるようになりました。この写真は多摩川の河原で撮ったのですがオレンジ色でなく目立つ赤い実でした。美味しそうに見えますが甘くなくスカスカなリンゴを食べてる感じ。鳥にも年内は食べられず、年明けになってようやく食べられるようです。



内房線の浜金谷駅から歩いて約20分の所・明鐘岬（岬）に行ってきました。三浦半島から東京湾を渡ってくるハイタカの観察が目的。現地にいたバードウォッチャーの方々からハイタカの飛翔を教えてもらいました。12時頃に次々に現れ23羽が本日の成果であったと教えてもらいました。足元の海岸にクロサギが現れポーズを取ってくれました。

11月7日、甲府駅から身延線に乗り換えて市川大門駅で下車、富士川の河原で鳥見歩きをしました。カルガモ、

ヨシガモ、オカヨシガモ、カワセミ、カンムリカツブリ等が揃っていました。河原ではクコの赤い実が鈴なりになっていました。クコの赤い実を食べている蛾の幼虫（写真右）がいてビックリしました。



11月8日、八王子・湯殿川を鳥見歩き、クイナがちょっと姿を現したが、ツルヨシの株元に逃げ込んでしまいました。クイナが隠れた当たりにはスズメの集団がいてカナムグラの実を食べていました。カナムグラは人からみれば厄介な雑草ですが、スズメにとっては貴重な食糧源ですよね。



11月10日、八王子・恩方の里山を歩きました。紅葉にはちょっと早い時期、最終目標地の心源院の裏山のセンブリは大きな株はありませんでしたが何とか咲いていました（写真上）。途中の民家の菜園には食用ギクが朝露を浴びて咲いていました。同行者の1名から「この写真をラインにアップして欲しい」との要望に応えた作品です。上が薬用、下が食用です。



20年以上まえから行ってみたいと思っていた「京都の美山かやぶきの里」に行ってきました。約50戸の民家のうち39棟がかやぶき屋根で、江戸時代からほとんど変わっていないというから驚きです。かやぶき屋根の民宿に2泊し、いろいろを囲みながら、ゆっくりと流れる時間を堪能。シカのジビエ、地どりのすき焼きに地酒がよくマッチしました。集落の前の清流（由良川）にはカワガラス。屋根のてっぺんに横に並ぶ「千木」にトビとイソヒヨドリが止まってくれました。その写真は明日、アップします。



かやぶきの里でツグミ、スズメ、ジョウビタキ、モズ、カワガラスなど14種に出会いました。これ等の鳥がかやぶき屋根のてっぺんに横たわる「千木・雪わり」に止まるのをじっと待つこと3時間、トビとイソヒヨドリが止まってくれました。中でもこの場所で全く予想していなかったイソヒヨドリが突然現れてビックリ、感動ものでした。



11月14日、京都旅行の最後は伏見。写真上は坂本龍馬ゆかりの寺田屋の前の運河、ハナミズキの紅葉が見事でした。寺田屋の「金魚ツバキ」の葉を見た後、近くの黄桜カッパカントリーで「しぶりたて生酒」でメとしました。